

事業活動脱炭素化取組計画書

(宛先) 川崎市長

郵便番号 141-0022  
 住 所 東京都品川区東五反田2丁目18番1号  
 氏 名 メビウスパッケージング株式会社  
 代表取締役社長 飯田 高  
 代理人 川崎工場長 佐伯 武志  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	メビウスパッケージング株式会社川崎工場		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区浮島町11-1		
該当する事業者の要件 及び温室効果ガスの排 出を行う産業、運輸そ の他の部門	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第4条第1号該当事業者	産業 部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第2号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第3号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第4号該当事業者	部門
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業 (別掲を除く)
主たる事業 の業容	プラスチック容器製造販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	8,574 kL
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担 当 部 署 名	
		所 在 地	
	電 話 番 号		
	F A X 番 号		
	メー ル ア ド レ ス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	2025 年度 ～ 2027 年度
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制	別添 指針様式のとおり
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項	別添 指針様式のとおり
自動車の使用に伴う温室効果ガスの排出の量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項	別添 指針様式のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動脱炭素化取組指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。

1 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針

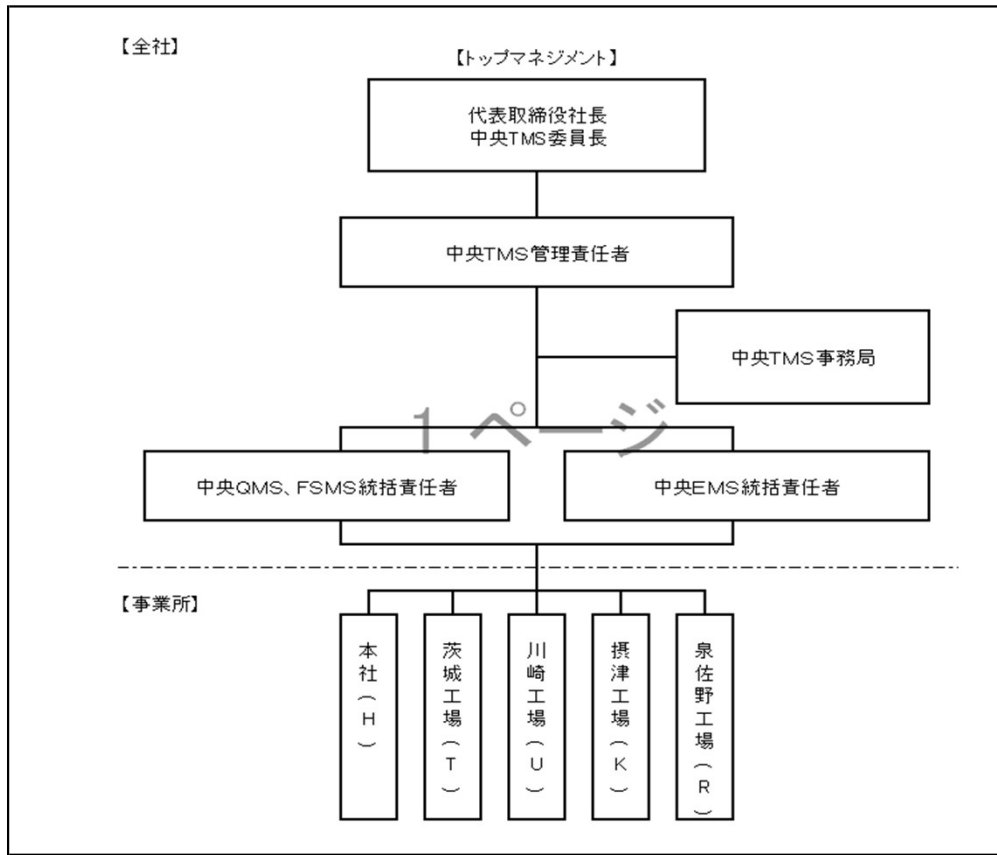
(1) 温室効果ガス排出量の削減等に向けた方針

**基本方針**  
 (1) お客様の要求・期待に応える、高品質な製品・サービスをお届けします。  
 (2) 当社の全ての活動において、環境負荷の低減と環境汚染の防止に努めます。  
 (3) ステークホルダーとの誠実・適切なコミュニケーションを行い、品質・環境・食品安全の継続的な改善と向上を進めます。  
 (4) 関連する法令とお客様との契約を順守します。  
 (5) 従業員の個性や挑戦意欲を尊重し、働きがいを感じられる会社を目指します。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

事業活動に於いて、個々の条件の下で環境に対する運用が確実に行われるように、その環境方針、環境目的・目標に整合して特定された著しい環境側面に伴う運用を明確にし、計画する。詳細は「EMM-880 環境実務規定」にて定め、実施し、維持する。  
 a) 環境方針並びに目的及び目標から逸脱するかもしれない状況を想定し管理するために、“文書化された手順”を確立し、実施し、維持する。  
 b) 手順には運用基準を明記する。  
 c) 当社が用いる物品及びサービスの特定された著しい環境側面に関する手順を確立し、実施し、維持すること、並びに請負者を含めて、供給者に適用可能な手順及び要求事項を伝達する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制



3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項

(1) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量((基)は基礎排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。))

		1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
基準	年度	2024	年度	2024	年度	2024	年度
目標	年度	2027	年度	2027	年度	2027	年度
基準	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)	13,465	(基)		(基)	
		(調)	13,465	(調)		(調)	
目標	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)	13,061	(基)		(基)	
		(調)	13,061	(調)		(調)	
削減	量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)	404	(基)		(基)	
		(調)	404	(調)		(調)	
削減	率	(基)	3.0 %	(基)	%	(基)	%
		(調)	3.0 %	(調)	%	(調)	%

イ 温室効果ガスの排出の量の実績

			1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
第1年度	(年度)	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)		(基)		(基)	
		削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)		(基)		(基)	
		削減率	(基)	%	(基)	%	(基)	%
第2年度	(年度)	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)		(基)		(基)	
		削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)		(基)		(基)	
		削減率	(基)	%	(基)	%	(基)	%
第3年度	(年度)	排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)		(基)		(基)	
		削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基)		(基)		(基)	
		削減率	(基)	%	(基)	%	(基)	%

(2) これまでの取組における温室効果ガス排出の量の削減目標等

比較年度	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
	2019	年度	2013	年度	2019	年度
比較年度排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基) (調)	20,704 20,156	(基) (調)		(基) (調)	
目標排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	(基) (調)	13,061 13,061	(基) (調)		(基) (調)	
削減率(目標)	(基) (調)	36.9 % 35.2 %	(基) (調)	%	(基) (調)	%
削減率(第1年度)	(基) (調)	%	(基) (調)	%	(基) (調)	%
削減率(第2年度)	(基) (調)	%	(基) (調)	%	(基) (調)	%
削減率(第3年度)	(基) (調)	%	(基) (調)	%	(基) (調)	%

(3) 目標設定に関する説明

メビウスパッケージング株式会社が属する東洋製罐グループでは、低炭素社会の実現に貢献するために2030年度までに事業活動での生産重量あたりCO<sub>2</sub>排出量を50%削減する中期目標を掲げています。

川崎工場では、省エネルギー活動を軸に、エアリーク改善などの是正や新規設備の導入によるエネルギー使用の効率化など推進しており、これらの省エネルギー活動による効果はCO<sub>2</sub>換算で、2025～2027年の期間で年間1%のCO<sub>2</sub>削減の目標と致しました。

(4) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施する温室効果ガスの排出量の削減に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	ポンプは、生産工程等から要求される使用端圧力及び流量を把握して、負荷に応じた適正な流量及び圧力による運転を行う様に改造する。
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における排出量の増減等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

4 エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項

(1) エネルギーの使用量に係る原単位等の値(1、2号該当者)

原単位等の活動量		生産重量		原単位等の単位		k1/トン
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
エネルギー消費等の原単位の値	0.6295					0.6106
活動量の値	13620					13620
エネルギー消費等の削減率			%	%	%	3.0 %

(2) 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(4号該当者)

原単位等の活動量		生産重量		原単位等の単位		
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
排出量原単位の値						
活動量の値						
排出量原単位の削減率			%	%	%	%

(3) 目標設定に関する説明

<p>○毎月省エネ巡回の実施                  生産現場で無駄を見つけ改善を進める                  ・エアーの拭きっぱなしや漏れ                  ・コンベヤやプロウアーの空運転                  ・照明のつけっぱなし</p> <p>○生産設備及びユーティリティ設備並びに空調機器更新による高効率化                  ・押出機モーター更新                  ・ポンプの台数制御の追加</p>
--

(4) 基準年度からの原油換算エネルギー使用量等の推移 (1、2号該当者)

ア 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
原油換算エネルギー使用量	8,574 kL	kL	kL	kL
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	13,465 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
事業所の数	1			

イ 事業所単位

基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kL 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量《クレジット考慮》(t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
メビウスパッケージング株式会社川崎工場	神奈川県川崎市川崎区浮島町1-1-1	13,465			

(5) 計画期間のエネルギー消費原単位等の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施するエネルギー消費原単位の改善、エネルギー使用量の削減等に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産活動の効率化 生産開始と停止の手順を明確化し、訓練することで、不良品率低減させ、これに掛かるエネルギーを削減する。</li> <li>○毎月省エネ巡回の実施 生産現場で無駄を見つけ改善を進める                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアーの拭きっぱなしや洩れ</li> <li>・コンベヤやプロローの空運転</li> <li>・照明のつけっぱなし</li> </ul> </li> <li>○生産設備及びユーティリティ設備並びに空調機器更新による高効率化                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・押出機モーター更新</li> <li>・ポンプの台数制御の追加</li> </ul> </li> </ul>
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間におけるエネルギー消費原単位等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

5 再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項（1、2号該当者）

(1) 再生可能エネルギー源等の導入

ア 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入（基準年度）

種	類	設備規模 (kW)	発電量 (kWh/年)	余剰売電量 (kWh/年)	導入（保有）年度
太	陽	光			0
風		力			0
バ	イ	オ			0
		マ			0
		ス			0
(燃料: )					
そ	他	( )			0
そ	他	( )			0
合	計		0	0	

イ 使用電力の再生可能エネルギー電源比率

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
電力エネルギー 消費量	38,301,000 kWh	kWh	kWh	kWh	38,301,000 kWh
再エネ電源等	1,915,050 kWh	kWh	kWh	kWh	1,915,050 kWh
再エネ電源比率	5.0 %	%	%	%	5.0 %

(2) 電気事業者等から調達する電力の排出係数

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
排出係数 ( kg-CO <sub>2</sub> /kWh )	0.431				0.431

(3) 使用エネルギーの電化の取組

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
電化の割合	99.6 %	%	%	%	99.6 %

(4) 目標設定に関する説明

建屋構造等の点から、太陽光パネル導入等ができません。

(5) 計画期間の再生可能エネルギー等の導入、電気事業者等から調達する電力の温室効果ガス排出係数等の状況

計画	建屋構造等の点から、太陽光パネル導入等できません。	
第1年度		
第2年度		
第3年度		
計画期間における再生可能エネルギー等の導入等の評価 (第3年度の報告時に記載)		
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		

7 温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項

(1) 全社を含む取組

ア 脱炭素表明・中長期の温室効果ガス削減目標の設定

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
(ア) 脱炭素に向けた表明の有無				
有無	上記目標等の設定なし			
内容				
(イ) 脱炭素に向けた表明の達成年度の目標				
年度	2030年度	年度	年度	年度
(ウ) 中間目標				
目標	2030年度	年度	年度	年度
	生産重量当たり50%削減 (2019)年度比	%削減 ( )年度比	%削減 ( )年度比	%削減 ( )年度比

イ 脱炭素化に資するイノベーションの取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	事業活動や他の者の脱炭素化につながる取組有			
内容	かわプラへの参加			

ウ 中長期的な視点での温室効果ガスの排出量の削減目標

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	無			
内容				

エ 二酸化炭素を排出しない熱エネルギーの導入

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	導入なし			
内容				

オ SBT等イニシアチブへの加盟・賛同

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
SBT	認定済み			
RE100	該当なし			
RE Action	該当なし			
TCFD	賛同済み			

カ サプライチェーン全体での削減の取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	定量的な記載有			
内容	2019年度比30%削減			

(2) 市内事業所の取組

ア 川崎CNブランドの認定の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	製品・技術等の利用なし			
認証年度				

イ 川崎メカニズム認証制度の認証の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取得なし			
認証年度				

備考 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

8 地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項（3から7までの事項を除く。）  
 （各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。）

目標年度までの計画	不良品の削減による廃棄材料と電気使用量の削減
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	